

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492100017		
法人名	有限会社 坂倉		
事業所名	グループホームとういん		
所在地	三重県員弁郡東員町鳥取1308-1		
自己評価作成日		評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2492100017&SCD=320&PCD=24
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 23 年 8 月 18 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①東員町の大規模団地(ネオポリス)と伝統文化を継承している鳥取・神田地区の接点に位置し、開設5年になります。「第2の我が家」として地域の方々に根づいてきています。
 ②地域の方々及び各種ボランティアサークルの皆様が毎週のように来てくださるようになってきました。ご利用者もとても楽しんでおられる様子です。
 ③1ユニット9名の少人数で家庭的な雰囲気を大切に、「共に暮らす」なかで交流が深まり、支え合えるところまで高めたいと理念に基づいて支援をしています。
 理念「思いやりの心を大切にし その人がその人らしく地域で生活することを支援していきます」

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所開設5年になり、毎週入れ替わり立ち代りという表現が当たるほど地域のボランティアさんの訪問があり、地域との交流も出来てきている。家族宛のたより「グループホームとういん」の発行や業務改善委員会の立ち上げ、運営委員会も定期開催されるようになり、事業所運営も軌道に乗ってきているように思える。こちらが癒されると職員が言うくらい利用者の皆さんはゆったりとしておられるし、調査当日も午後3時頃には大きな歌声や笑い声が聞こえた明るいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの心を大切にし その人がその人らしく地域で生活することを支援していきます」という理念を掲示及び業務日誌に表示し職員会議等も活用し職員への意識付けをし、確認している。	「思いやりの心を持つ」事の大切さを定例の職員会議だけでなく、日頃の仕事の中でも話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々及びボランティアサークルの皆様が毎週のように来て一緒に楽しんでおられます。又、近くの小学校からも交流に来てくれている。	地域の20を越えるボランティア団体が入れ替わり立ち代り訪問してくれるし、事業所主催の「夏祭り」を今年も開催し、地域の方々の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として実習生の受け入れを行っている。又、ご家族・地域の皆様と支援方法等を協議し介護に生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	この1年間で運営会議は質量共。格段の充実を図ってきた。又、内容についてはご家族へのお便り及び職員会議で報告し、徹底している。	会議構成メンバーも町役場、社協、包括、自治会、老人会、民生委員、ボランティアサークル等地域の皆さんに利用者家族も加わり、総員10名余りと充実した話し合いが出来るようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1～2回東員町役場の担当課及び社会福祉協議会を訪ね情報交換等を行っている。又、行政域内・外の介護にかかわる状況についても交流している。	利用者3人が入れ替わったこともあり、町担当及び社会福祉協議会とは綿密な情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠に関しては職員会議及び個別に意見交換を行っている。安全・安心な生活には構造上やむをえず実施して職員もその旨自覚している。	過去に1階ショートの利用者が外出された経緯から、玄関は施錠されている。職員会議等で検討され、時間帯を考慮する方向も模索されているが、今後も引き続き業務改善委員会で検討する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常業務を通して虐待防止法に関する理解を深める研修をしている。「声かけ」ひとつが大切であること(基本)をくりかえし確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護制度の利用はないが、行政のパンフ等を利用し必要性について話し合いをもって今後備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に関しては必ず面談を行い、契約書・重要事項説明書等の読み合せし、丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人・ご家族の言動から思いを理解するよう努め、又、運営推進会議に毎回、一組の出席を得て反映している。	運営委員会に出席された時や面会時に色々意見要望を出していただいている。また毎月出しているたより「ご家族様」に利用者本人の様子だけでなく、小遣いの残高や薬の残り具合等もお知らせし、話す糸口を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及び業務改善委員会の立上げ等により、いわゆる「風通し」は進んでいる。又、ショートステイとの交流も行っている。	6つの業務改善委員会を立ち上げ、全職員がどれかの委員会に所属している。「自分たちの職場は自ら改善していこう」という趣旨の委員会であり、職員は活発に意見を出し合っている。	各委員会で「アクションプラン」を立てており、6ヶ月毎に見直すことになっている。原点はコツコツと職場をよくしていくことであり、是非地道に継続されることを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間については扶養の人はその範囲内で、日勤・夜勤両方できる人は両方をバランスよく勤務に入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の見学や外部研修会には参加できるようにし、研修報告書は職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域事業者との連携強化の為、ネットワーク作り及び勉強会・介護支援専門員の協議会等、活発に推進している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員がご本人のおちつける場所へ出かけ顔なじみの方々を交えアセスメントを行い意向等を傾聴し受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思い及び求めているものを傾聴している。話をうかがうことで落ち着いてもらい、次のステップへつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人・ご家族の思い等を確認し、改善に向けた提案・相談を繰り返すことで必要なサービスへつなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが「協働」しながら和やかな日々が暮らせるよう場面作りや役割りづくりをグループホームとういんの良さの一つとしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の絆を補い支え合う重要性は益々高まって来ています。「トータルの安心」を支援すべく、より一層力を注いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々やボランティアサークルに定期的に入ってもらっている。絵手紙・傾聴・理美容・演芸・園芸等々多彩で毎週何かをやっている。	利用者が地域に出かけることは少ないが、地域の仲間が良く訪ねてきてくれる。また地域の馴染みのボランティアグループが尋ねてくれる関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	絵手紙を一緒に描いたり、一つの作品を仕上げたりすることでお互いの関係がうまくいく場面もみられる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方及び入院退居の方にも継続的な付き合いを心掛けている。又、ご家族との交流も続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネによる個別傾聴やご家族との接点及び気持ち不安定な時は、より添って安心感につなげている。	利用者にとって夫々話しやすい職員があり、時にはじっくりと話し込んでおり、職員は色々な要望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、及び関係者からの聞き取りに努めている。特にご家族との関係・距離感については留意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らし方の中で「できないこと」より「できること」に着目し、役割等々の達成感を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いを大切に、それを叶えるべくご家族及び職員の専門性を生かした意見交換を行い個別支援に取り組んでいる。状況を毎月評価し、次に反映している。	6ヶ月間の変化が一目でわかる「モニタリング」シートを採用しており、毎月モニタリングしながら介護計画作りをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は個人別介護・ケア記録に記入し情報を共有している。又、申し送りノートも併用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の方々の多様なボランティアの支援が確実に得られるようになり入居者の個別ニーズへの対応力は向上している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に根ざしたグループホーム作りに全力で取組んでいる。運営推進会議のメンバー充実、約20のボランティアサークル及び小学校との交流も続いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的にはご家族との接点を増すべくご家族同行となっているが、状況に応じ職員が代行している。	全ての利用者が従来からのかかりつけ医を利用しており、家族が同行しているが、いなべ総合病院へは職員代行が多い。認知症に関しては東員病院が近くにある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に体調面を相談し、状態に応じて受診等、即応できる体制となっており、早期に適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法の情報を医療機関に提供し、職員が見舞うようにしている。又、ご家族とも情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の時点から重度化についての話し合いを行っている。可能な限りホームでの暮らしを希望される方には、医療との連携を密にして支援の継続に努めている。	「重度化及び終末期支援の指針」をこの6月に作り、これから運営に入っていく。可能な限り支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	行政や消防署の協力も得て、救急手当や初期対応等の研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対応及び避難訓練の重要性をあらためて認識し、マニュアルを整備すると共に実地訓練も行い更なる充実を図っている。	マニュアルも整備し、避難訓練も年4回計画されている。また緊急時の助け合い協定書も、近隣の老人ホームとヘアサロンと取り交わしている。	災害は何時やってくるかわからないので、地域の協力が必要になる。訓練内容について運営委員会の意見を頂いたり、夜間を考慮した訓練も計画してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「声かけ」の重要性等、職員会議で共有すると共に資料を回覧・輪読し、さりげない支援に取り組んでいる。	介護者としてのマナー（心構え）として、経験者といえども新人のつもりで「言葉づかい」には注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が選べるよう提案し、おやつ・レク活動・ボランティアさんとの交流・お出かけ等、ご自分で決めるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	少人数の良さを生かし一人ひとりの状態に配慮し、個別支援をベースとしながら決してひとりぼっちにならないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容・洋服選び等はご本人主体で行っている。理美容は馴染みの地域の方で会話も弾みながらしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を囲んで皆さんでいただいております。調理の匂いも楽しみながら準備及び片付けもお願いしている。月1回は外出に出かけている。	食事専門スタッフが冷蔵庫の中を見て料理を作っている。利用者は食欲旺盛で、皆さん完食だった。食後の片付けや食器洗いは利用者が行っている。またおやつ作りは利用者参加で行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせたメニュー及び食事量を考慮して提供し、摂取量等について記録し、状態に応じ栄養剤も併用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯医者と連携しキメ細かく口腔ケアに取り組んでいる。就寝前には義歯の洗浄を働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレをベースとしている。ポータブルトイレ使用の方がトイレでできるようになったりその人に合った支援を行っている。	トイレでの排泄自立への支援を強力に進めており、今までポータブル利用だった人がトイレで出来るようになった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫及び水分摂取で自然な排便ができるよう取組むと共に、声かけによる動機づけ及び日中、身体を動かす機会を多くしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2Fのホームのお風呂に入っていただくようにし、ゆったりと職員も対応できるようになり、楽しんでもらっている。	毎日沸かしており、入りたい人は毎日でも入れるが、少なくとも3日に1回は入っていただくよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安感や不眠傾向が見られる時は職員がある時間、より添い傾聴し、気持ちを鎮めて入眠されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を専用のファイルに整理し、最新情報を共有している。又、お薬管理板を設けると共に日々の服薬を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリを感じてもらえるよう役割りや楽しみごとを設けている。特にレク活動や食事の時間はお仲間として過ごして頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の気分や体調に応じて季節を直接感じてもらえるよう、買い物・〇〇狩り・ドライブ及びなじみの喫茶店・外食等多くの支援プログラムを事前にお伝えし実施している。	近隣は交通量の多い道路であり、事業所から歩いて行く散歩でなく、車で近くの公園へ出かけている。レクリエーション業務改善委員会が1年間の計画を作っており、季節にあった場所に出かけている。図書館や夜の飲食街に家族と出かける利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの仕組みを整備しており全員の方が利用されている。パン屋さんや喫茶店等の支払いはお金に触れてもらえるよう心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	絵手紙をボランティアさんと一緒に描いて家族に出したり、受診の電話をされたりしている。又、行事の案内も書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング及び廊下にはレク活動で制作した作品や行事の時の写真等を一緒になって掲示したり、お孫さんの描いた絵も掲示し、いこいの空間となるよう努めている。	利用者が作成したちぎり絵や絵手紙、干支のウサギの大作が廊下やリビングに飾ってある。利用者のお孫さんの絵もあり、それを見る利用者の顔も和んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には日中、ショートステイの方々と過ごす時間を持つことで、お仲間を広く選べるような配慮もしている。又、リビングの席配置については柔軟に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して「ご家族の皆様へ」の書面を説明してお渡しし、愛着ある品物を持参されるよう働きかけている。ご家族の写真物語りを飾っておられる方もみえる。	比較的さっぱりした居室もあれば、飾り物がいっぱい部屋もある。夫々自分流であり、西日の入る窓にカレンダーが張ってある部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ及び洗面台は廊下に出て用を足すようなレイアウトにして、極力移動範囲が日常生活の中で広がるように配慮している。又、リビング及びトイレと居室の位置関係を体力に応じ考慮している。		